

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

IKITOMO

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン 「イキトモ」

VOL.

16

SUMMER
2018



身近な自然を観察しよう



ハシブトガラス

地面にいる時に両足を揃えて、ジャンプするように進みます。



ヤドリギ

秋～冬、一部だけ葉が落ちていない木を見たことがありますか？これは“木に寄生している木”なのです。



ニホンアマガエル

指先に吸盤があり、主に植物の上で生活しています。環境により体の色を変えられます。

朝 玄関の扉を開けた時、道端に草は見えていますか？
駅に向かうまでの間に街路樹や小川はありますか？
学校や会社のまわりには、ほんの少しでも土はありますか？
そこにはたくさんの動物や昆虫、植物が暮らしています。
山奥まで出かけなくても、
私たちは普通の生活で様々な命に出会っています。
自分が思っているよりずっと、何倍も多く。

身近な場所で見つけられる生きものに目を向けてみましょう。
いつも見ている生きものも、すこしだけ長めに観察してみませんか。
二次元の世界では感じられないにおいや音、
動きに気がつくかもしれません。
同じように見える生きものにも様々な種類があり、
それぞれ特徴が異なります。
そこには想像を超えた世界が広がっているかもしれません。

私たちの日常と共にある、 たくさんの生きもの

タンポポ類

タンポポは小さな花が集まって円盤状に咲き、ひとつの花のように見えています。



ニホンカナヘビ

ニホントカゲと似ていますが舌先がヘビのように二又に別れていて、長い尻尾を持つのが特徴です。



キアゲハ

羽につけている鱗粉はサクラの花びらのような形で等間隔にきれいに整列しています。



ホンダタヌキ

複数頭でトイレを決め、同じ場所に“ため糞”をする習性があります。神社や公園などにも生息しています。





さあ、観察してみよう

気になる場所、気になる生きものがいたら、特徴や動きをよく見てみましょう。
「日常に隠れる」そうだったのか！」を身近でみられるカラスやタンポポを例に紹介します。

check!

在来種と外来種の見分け方

在来タンポポは20種類ほどあり、主に春に開花します。季節を問わず花を咲かせるセイヨウタンポポは外来種。一般的には花びらの下の部分、花を包んでいるうろこ状の総苞片で見分けることもできます。下の部分が閉じているのが在来種、反り返っているのが外来種です。



《タンポポ》

check!

エサのにおいでやってきますか？

鳥類は一般的に嗅覚が発達していません。カラスも同様で嗅覚は優れていません。その代わりに、視覚能力が高く、色覚もあるので、目で見てエサを探しているのです。



check!

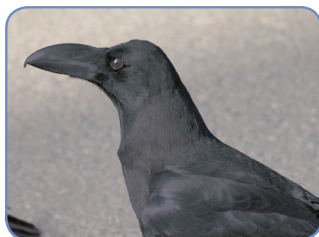
鼻の穴が見える時期はいつ？

5月頃から羽が抜け替わる換羽が始まり、10月頃には終わります。上のくちばしの付け根にも羽(嘴毛)が生えているため、この時期には、鼻の穴を見ることができます。

check!

ハシブトとハシボソの見分け方

身近に見かけるカラスのほとんどがハシブトガラスかハシボソガラスのどちらかです。名前の通り、ハシブトはくちばしが太く、ハシボソは細く、上下のくちばしで太さに差がないのが特徴です。またハシブトは「カーカー」ときれいな声で、ハシボソは「ガーガー」とかすれた低い声で鳴きます。



check!

タンポポは食べられますか？

漢方薬としても使われる根の部分はノンカフェインのタンポポコーヒーやタンポポ茶に。葉や茎は栄養価が高く、葉物野菜同様に料理に使用することができます。

check!

タンポポからタイヤができるって本当？

タイヤはパラゴムノキの樹液でできた天然ゴムと石油系の合成ゴムからできています。タンポポも根の部分に天然ゴムの成分を持ち、中でもロシアタンポポが資源として注目されています。



斎木健一

(千葉県立中央博物館 主席研究員)

さいきけんいち 理科教育を担当。
研究対象は植物、特に松ぼっくりの化石。博物館のウェブ上で公開している「野草・雑草検索図鑑」を開発。



INTERVIEW

名前を知ることが観察の第一歩

Q 学校などでも自然観察にしているお話をされていますが、どんな方法を勧めていますか？
A 初心者にはスマートフォンの写真と録音機能を使った観察です。私自身もやっている方法で、生きものを見つけたらまず撮影します。コツは図鑑とセツトで使うこと。写真から特徴を見て、図鑑で名前を調べます。
Q 写真を撮る時の注意点は？
A その後、図鑑で調べやすいように撮ることです。例えば花の場合、花に注目して上から撮ることが多いのですが、検索時には葉や茎の形が確認できることが大切です。また手の上で撮れば、大きさがわかります。昆虫の場合は遠くから撮りはじめ、そっと近寄っていくとよい写真が撮れることが多いですね。

Q 図鑑で名前を調べて、その先は？
A 名前を知ることが知識の入り口。そこから無限の世界が広がっていきます。自分が見つけた生きものを図鑑で見発見できると、とてもうれしいものです。名前がわかればインターネットで、もっと詳しい情報を知ることができます。いろいろな生きものの名前がわかってくると、生きものを見分けることが可能になります。ハイキングに行つた際に、街中の植物から山の植物へと植生が変わる様子など、生きものの質の変化にも気づけるようになるのです。
Q 録音機能はどのように使えばよいのでしょうか？
A 鳥の鳴き声を録音します。街中でも朝方には数種類の鳥の

鳴き声を聞くことができます。鳴き声を収録したCD 図鑑もありますから、鳴き声と名前の確認もできますし、慣れてくると聞き分けられるようになります。
Q さらに生きものについて知りたくなったら、どんなことをすればよいのでしょうか？
A 博物館で開催されている観察会や講座に参加することをお勧めします。どこの博物館でも行なっていますが、千葉県立中央博物館では講演会や体験イベントを毎月開催しており、実際に山や海で生きものを観察するのもあります。これらはその場で学芸員に質問もできるので人気があります。一度自分なりに調べてみて、それでもわからないことは博物館で学芸員に相談することも方法のひとつです。

TIPS

FOR OBSERVATION

自然観察のいろいろ

ウェブサイトやコンクールで
好奇心をさらに深めてみよう。

🔍 調べよう

○ イベントについて調べたら、情報豊富なウェブサイトにて。



環境らしんばん

環境らしんばん

地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

環境について知りたい、調べたい、実践したい人向けの環境情報のデータベースです。NPO / NGO のイベント・セミナーや活動レポート、ボランティア募集をはじめ、環境活動の拠点なども調べられます。

🔍 参加しよう

○ 観察して調べたことをウェブやコンクールで発信してみませんか？



いきものログ
生物多様性センター

第59回
自然科学観察コンクール
いせこく

自然科学観察コンクール
主催：毎日新聞社・
自然科学観察研究会



図書館を使った
調べる学習コンクール®
公益財団法人 図書館振興財団

見つけた生きものの情報を報告してみんなと共有したり、いろいろな団体の調査プロジェクトに参加したりできるインターネット上のシステム。生きものの種類判別のサポートも受けられます。

1960年から続いている、全国の小・中学生を対象とした理科自由研究コンクール。身の回りの「なぜ?」「どうして?」という素朴な疑問を研究する、そんな機会を発表する場を提供しています。

身近な疑問や不思議など、自由なテーマについて図書館を使って調べ、まとめた作品のコンクール。調べる力を育て、調べることで生きる力を養います。「国連生物多様性の10年 日本委員会」賞も授与されます。

自然や生きものについて関心を持つことで、生きもの同士、生きものと人間との関わりを知ることができ、「大切」「守りたい」という気持が生まれます。あなたの関心や発見が、地球上に存在する生きものたちのつながりすなわち「生物多様性」を守っていく第一歩につながります。

生物多様性のことを多くの人に
知ってもらうために、2012年9
月に旗揚げした様々な団体のキ
ャラクターによる広報組織です。



生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

福知山市みどりの親善大使
ゴーヤ先生
(京都府福知山市)
→ <http://www.fukuchiyama-kankyokaigi.jp/5858/>



地球温暖化やヒートアイランドを抑制
するための「みどりのカーテン」を普
及するキャラクター。2007年から全
国の小学校や公民館などで教え、その
累積人数は15,000人を超えました。
京都府福知山市のみどりのカーテン実
施率は11.69%を誇ります。



認定連携事業

生物多様性を守るために連携して取り組んでいる
事業を認定し、広報活動を行っています。

『トンボ100大作戦 滋賀のトンボを救え!』

生物多様性 びわ湖ネットワーク

琵琶湖がある滋
賀県で、成長

に応じて多様な環境
を利用する「トンボ」
を通じて、生物多様
性の保全に取り組む
活動です。企業を中
心に様々な団体や組

織が連携し、滋賀県で過去に生息が確認された100
種ものトンボの保全を目標に掲げ、①100種を探そう、
②トンボを守ろう、③みんなに知らせよう、の3つの
作戦を軸に活動を進めています。



100

「生物多様性の本箱」から ～みんなが生き物とつながる100冊～

生物多様性の理解や普及啓発の
ために UNDB-J 推薦「子供向け図書」
を選定しています。



『アリの日記』

著者 = 栗林 慧
出版 = 平凡社

何気なく過ごしている場所を注
意深く見てみると、不思議な
形の植物や虫の死骸などをたくさん
見つけられます。画面いっぱいに出
現するバッタの頭や蝶の翅、種子の
芽ぶき…。地上3ミリのアリの目線
から撮影した昆虫や植物、四季の移
ろいといった驚きに満ちた自然を紹
介する昆虫写真図鑑です。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)
※ UNDB = United Nations Decade on Biodiversity

「国連生物多様性の10年」の決定を受けて、2011年9月に設立。生物多様性の
主流化を目指して国内外のあらゆる主体が連携し様々な取組を進めています。

編集・発行

国連生物多様性の10年日本委員会事務局(環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室)

ホームページ URL : <http://undb.jp/> メールアドレス : shizen-suishin@env.go.jp